

30年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 11月1日～ 30年11月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	△ 21.4	△ 35.7
	マツ	△ 37.5	△ 43.8	△ 43.8
	広葉樹	△ 18.8	△ 25.0	△ 31.3
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 8.3	16.7	△ 8.3
	マツ	△ 7.1	△ 14.3	△ 14.3
	広葉樹	△ 28.6	△ 14.3	△ 21.4
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 25.0	△ 8.3
	マツ	△ 21.4	△ 28.6	△ 28.6
	広葉樹	△ 28.6	△ 50.0	△ 185.7

・チップ用国産原木の集荷動向はスギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの消費動向は11月の減少から12月は増加、1月は再び減少に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹の在庫動向は3カ月連続減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/11月	12月	31/1月
スギ・ヒノキ	16.7	16.7	16.7
マツ類	7.1	14.3	14.3
広葉樹	7.1	14.3	14.3

・チップ用国産原木の購入価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも強含み。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・バイオマス燃料向けに原木が流れている仕入減少。特に山形県内への流出が大。広葉樹は森林再生事業により入荷量やや増加。在庫はスギ1.0→1.0カ月、マツ類0.3→0.1カ月、広葉樹0.8→1.0カ月(東北)。
・埼玉県西部地域では台風災害による倒木林が多い(特にゴルフ場)。針葉樹原木の確保が厳しい中有り難い(関東)。
・天候も安定し、当月、翌月のスギ・ヒノキの仕入、消費動向はやや増加見通し。翌々月は積雪の心配にてやや減少。在庫動向は当月、翌月横ばい見通し、翌々月やや減少見通し(四国)。
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも順調に入荷してくると予想。消費は製紙工場、バイオマス発電とも点検月のため、いくらかの受入れ調整あり。原木は順調に入荷し、チップは減産調整により原木在庫はいくらかの積み増しになる模様(九州)。

(原木価格)

・バイオマス燃料の価格上昇により原木購入価格はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも高値安定。
・針葉樹原木の価格を上げて欲しいとの要望あり(関東)。
・原木購入価格に変化わないと思われる(九州)。

30年11月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/11月	12月	31/1月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	8.3	△ 16.7
	マツ類	△ 7.1	△ 21.4	△ 21.4
	広葉樹	△ 35.7	△ 21.4	△ 28.6
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	0.0	△ 21.4
	マツ類	△ 18.8	△ 31.3	△ 31.3
	広葉樹	△ 31.3	△ 12.5	△ 18.8
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 30.0	△ 20.0	△ 20.0
	マツ類	△ 25.0	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 33.3	△ 41.7	△ 41.7

・木材チップの生産、在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。
 ・スギ・ヒノキチップの出荷量の動向は11月の減少から12月は増加、1月は再び減少に。マツ類、広葉樹は3カ月連続減少。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/11月	12月	31/1月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキ、マツ類チップは原木入荷量の減少により出荷量も減少。広葉樹は入荷量微増によりやや増加（東北）。
- ・製紙ボード、燃料用とも受入れ抑制はなく、生産、出荷動向は原木仕入動向と同じで、当月、翌月やや増加、翌々月はやや減少の見通し。在庫は生産分を出荷するため横ばいからやや減少（四国）。
- ・生産。出荷動向は製紙、発電ともに減産。チップは在庫はしない（九州）。

(木材チップ価格)

- ・針葉樹チップの値上げを要望しているが回答なし（関東）。
- ・チップ価格変化なし（九州）。